



## 出荷を待つ「甲斐の木」

地元の木を使った家が当たり前だった時代から、戦後、急速に外材やコンクリートなどでつくられた家へ移り変わっていき、国産材の需要は低迷した。しかし、近年、外材の高騰や「木の家づくり」に関心が高まりはじめたことで、国産材の供給が求められている。山梨県にとっても県産材である「甲斐の木」の普及拡大を進めるのに絶好のタイミングである。県土の約78%を森林が占める本県には、戦後植林された多くの人工林があり、樹齢50年以上に達しているヒノキ、スギ、カラマツなどは今、まさに伐採の時期を迎えている。

県内の伐採現場では、重機やチェーンソーの音が響く中で数人の作業員が働いている。伐採した木をカットして、トラックで製材所まで運ぶ。懐かしい木の香りにつまれた製材所では、木の皮をはぎ、製材・乾燥し、規格ごとに積み上げて保管。注文に応じ、出荷している。

寒暖差が大きい山梨県で育った「甲斐の木」は、温暖な地域で育った木よりゆっくりと成長するので、年輪が詰まっている。他県産のものとは比べても決して見劣りすることのない自慢の木である。



Yamanashi Brand

やまなしブランド ①

# 甲斐の木 Wood

「甲斐の木」を生かした家づくり

山梨県には、豊かな森林がある  
 植林し再生に取り組む人  
 伐採した木材を製材し、新たな利用を考える人がいる  
 外材の輸入にも荒廃した森林の行く末にも  
 グローバルな視点が求められている  
 地元の木をふんだんに使った家づくりが  
 今また、新たな価値を生み出そうとしている





## 山梨で生かされる「甲斐の木」

山梨県は、四方を豊かな森林を抱いた山々に囲まれている。見た目にもやさしい森林は、地球温暖化の原因となっているCO<sub>2</sub>を吸収してくれる。そして、地面にしっかりと根を張った木々は、土砂崩れなどから私たちを守り、キノコなど豊かな林産物を提供するなど、さまざまな恵みを私たちにもたらしてくれる。しかし、間伐などを行わずにいると、陽が差し込まず、荒廃してしまう。森林は、適齢期に伐採し、植林することを繰り返すことによって、その持つ役割を果たしてくれる。だからこそ、伐採時期を迎



えた木を活用していくことはとても大切なことである。

ここ数年、全国各地で、地元の木を使って家を建てるという傾向が強まっている。地球環境のことを思えば、木材の輸送距離などを必要最小限にすることは、当たり前のことかもしれない。そして何といたっても、その地域の気候風土の中で育った木は、地元で活用されるのが一番適しているはずである。「甲斐の木」も、県内で使われることで、どこよりもより一層生かされてくるのではないだろうか。

## 木の国サイト

木の文化普及・創造の発信拠点「木の国サイト」。甲斐の木を使った集成材加工、プレカット加工、木材販売、展示、相談、研修、イベント開催などを行っています。



### ■お問い合わせ先

〒400-0211  
山梨県南アルプス市上今諏訪850-1  
☎055-284-8888 ☎055-284-8890  
E-mail info@kinokuni.gr.jp



(有)辺建築設計事務所(晋風社)  
田辺 久さん(一級建築士)  
いち早くエコ住宅に取り組んできた田辺さん。その情熱と知識、デザインセンスは全国でもトップレベル。

## 「甲斐の木」を使ったモデルハウス

「甲斐の木」の普及を呼びかけている山梨県木材製品流通センター協同組合の「木の国サイト」に、今年新しいモデルハウスが完成した。設計は原認定「甲斐の木活用アドバイザー」であり、環境省認定「環境カウンセラー」でもある辺建築設計事務所代表の「一級建築士の田辺久さん。

「輸送時に大量の化石燃料を必要とする外材より、地元の木材を使うことが、地球環境と身近な安全に役立つ」という考え方が当たり前にならなければいけない時代です。森林は、美味しい水や災害を防ぐためにも欠かせません。木を身近で利用する昔ながらの循環が回復すれば、健康な森林になっていく。また、木には何よりもぬくもりがあります。「甲斐の木」で家を建てた方から「家の空気が違う」という話も聞きます。家は家族を守る器、子供を育てる場ですから、家族の健康と環境、地域経済を守る「甲斐の木」で建ててほしい。」

最近、若い人が地元の木を使った家づくりに関心を持っている。ぜひ、このモデルハウスで実際に「甲斐の木」のぬくもりを体感して、「木材の地産地消」に参加してほしい。